

二〇一二年 六月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

いまだ万歳まんざいの人身にんじんを受けたりといふことをきかず、一生過ぎやすし。

『御文章』

この文章は、浄土真宗の第八代門主の蓮如上人が著した『御文章』に書かれている内容です。意味は、「いまだ人が一万年の寿命を受けたということを書かない。一生はすぐに過ぎてしまう。」ということ事です。「一生過ぎやすし」と言われたところで、ピンとこないかも知れませぬ。しかし、身近なところで考えてみると今日から六月に入ります。一年生にとっては新入生として新たな生活がスタートして二カ月が過ぎました。二年生・三年生も学年が変わり、二カ月が過ぎました。早いものだと感じませんか。みなさんの日常のなかにも「もう過ぎてしまったか」と実感できる場面がきつとあるはずです。その延長にあるのが「一生過ぎやすし」なのではないかと思えます。私たちののちには限りがあります。一万年の寿命もあります。限られたいのちを日々精一杯生きることの大切さを教えられているように感じます。平安学園の三つの大切に「時間を大切に」があります。日々の過ごし方を一度見つめ直してみてください。

今月の聖語

努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る

井上靖

非常に教訓となる言葉だと思えます。みなさんの口からよく出る言葉は「希望」でしょうか。それとも「不満」でしょうか。不思議と自分の物事に対して取り組む姿勢が言葉に表れるのかも知れませぬ。つつい「不満」をもらしてしまう人は、ひよっとすると自分に隙があるのかも知れませぬ。どうせ語るなら「不満」ではなく「希望」を語りたいですね。「希望」が語れるような取り組みが出来るか自分自身を振り返ってみてください。

合掌

宗教教育係